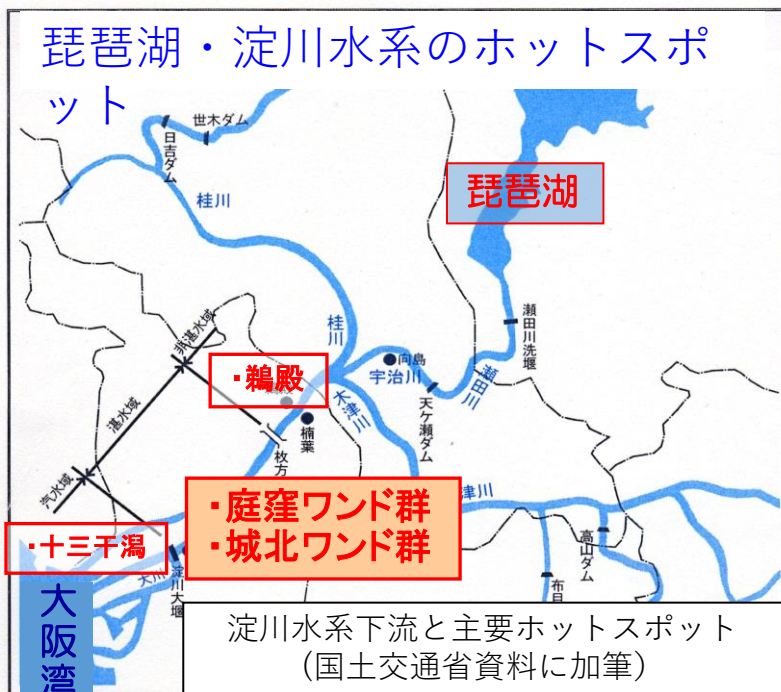


淀川の生物多様性とイタセンパラ

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク会長、大阪工大名誉教授 綾史郎

天然記念物、国内希少野生動植物種

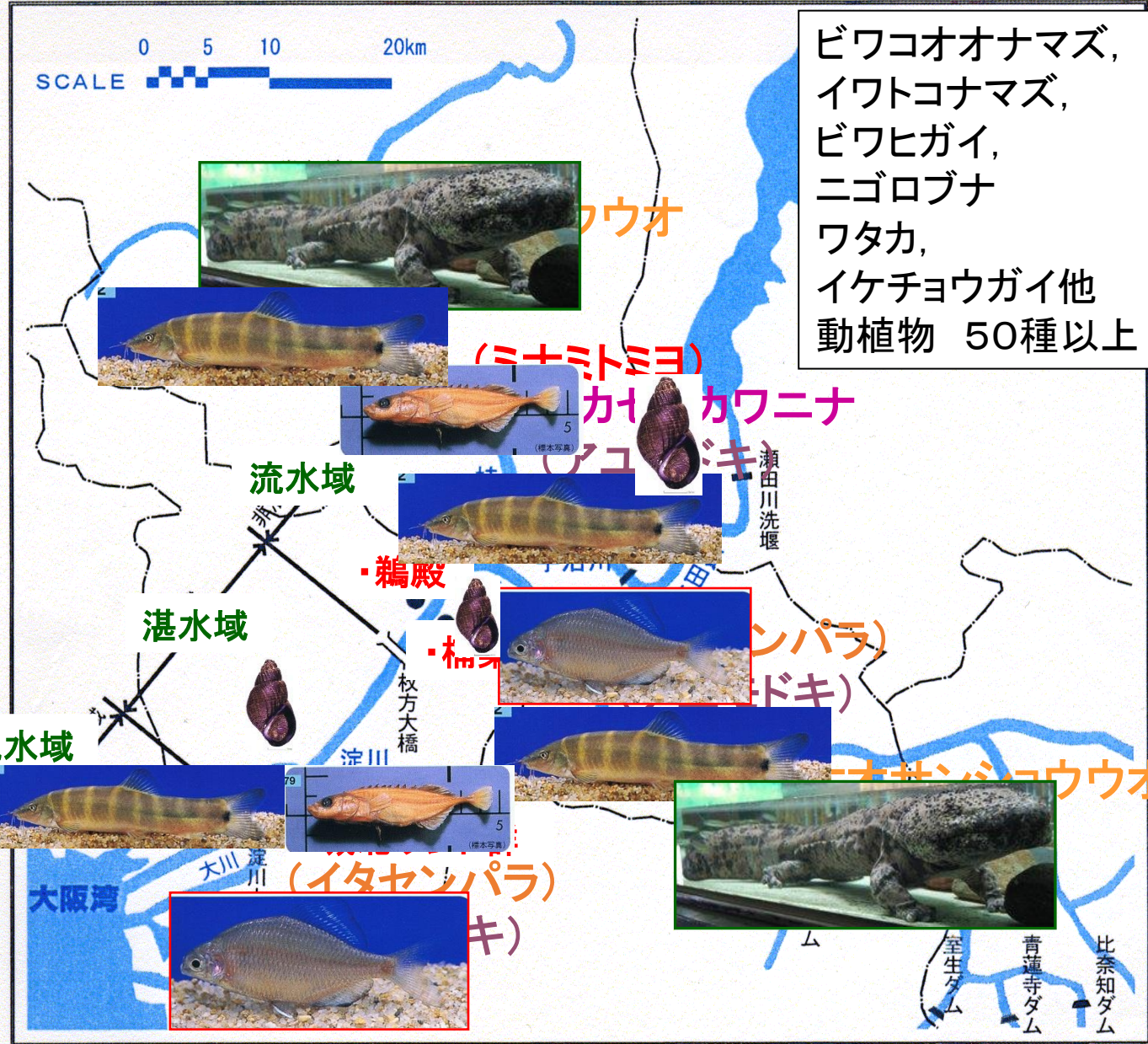
イタセンパラを再び淀川に泳がせよう ～淀川の生物多様性保全の取り組み～



琵琶湖・淀川水系の貴重種とその生息地(~70' - 00')

魚種数が多い
貴重種・固有種が多い
琵琶湖・巨椋池（止水域） +
淀川（流水域）
プランクトンが豊富

木津川
オオサンショウウオ
アユモドキ
イタセンパラ
宇治川
ナカセコカワニナ
アユモドキ
桂川
(ミナミトミヨ)
オオサンショウウオ
アユモドキ
淀川本川
(ミナミトミヨ)
ナカセコカワニナ,
アユモドキ
イタセンパラ



ビワコオオナマズ,
イワトコナマズ,
ビワヒガイ,
ニゴロブナ
ワタカ,
イケチヨウガイ他
動植物 50種以上

水域区分図

琵琶湖・淀川水系の貴重種とその生息地(2023)

木津川
オオサンショウウオ

宇治川
ナカセコカワニナ

桂川
オオサンショウウオ
アユモドキ

淀川本川
(イタセンパラ)



ビワコオオナマズ,
イワトコナマズ,
ビワヒガイ,
ニゴロブナ
ワタカ,
イケチョウガイ
他 50種以上

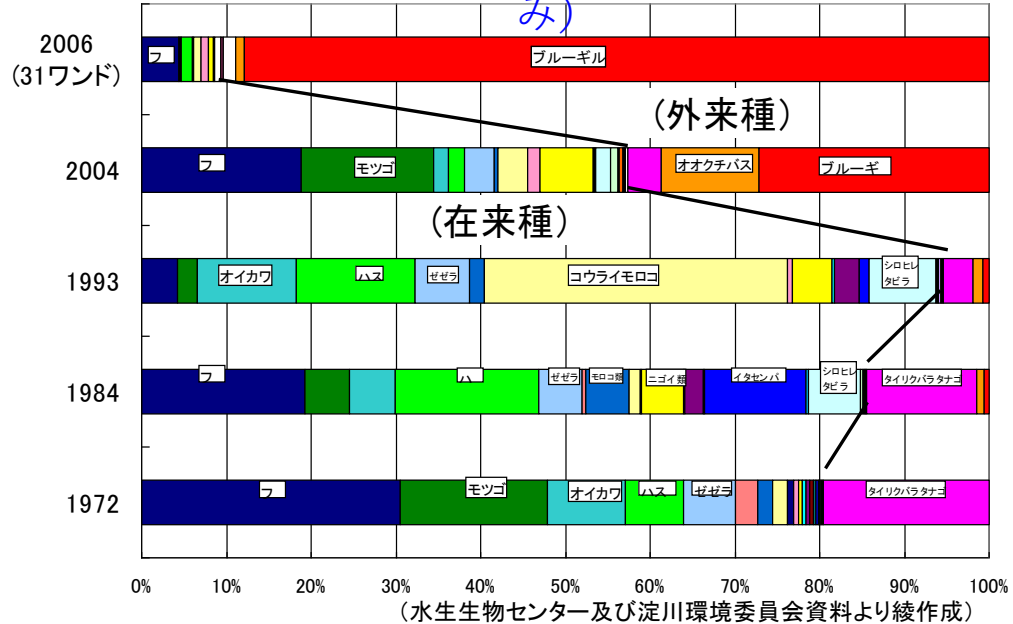
淀川生態系の劣化と再生の歴史

- 1950年代：洪水、水害の頻発
- 1960年代：生活排水による水質の悪化
(イタセンパラ未確認状態が続く)
- 1969年：イタセンパラ再発見
- 1971年：淀川生態系保護活動始まる
淀川水系工事実施基本計画改定
- 1972年：淀川河川公園事業着手
琵琶湖総合開発計画策定
- (ワンド群の減少:複断面河道化、冠水帯減少)
- 1974年：イタセンパラ天然記念物種指定
- 1983年～：洪水攪乱の減少 (淀川大堰竣工)
- 1992年：国連環境開発会議
(地球温暖化防止、生物多様性)
- 1993年：種の保存法、環境基本法施行
- 1997年：河川法改定(管理目標に環境が追加)
- 2002年：淀川生態系復元目標策定/1960年代環

境

- 2000年代：外来種が大量繁殖、食害
- 2006年：イタセンパラ生息確認できず
(組織的外来種駆除、新型ワンド造成始まる)
- 2009年：イタセンパラ再導入始める
- 2011年：イタセンネット結成、活動開始
- 2013年：イタセンパラ城北ワンドに公開再導入

淀川ワンド群における外来魚の爆発的増殖
(三川合流部～淀川大堰、2004年は31ワンドの
み)



多様な主体が連携する淀川水系の 生物多様性の保全・回復の取り組み

市民団体・団体

- 旭屋市運営委員会
- NPO法人 エコネット近畿
- 公益社団法人大阪自然環境保全協会
- 公益財団法人河川財団近畿事務所
- 一般社団法人環境事業協会
- 自然にみちた水辺づくりプロジェクト
- 一般社団法人消防潜水連盟
- 一般社団法人水生生物保全協会
- 生物多様性センター・サポートスタッフ
- せいわエコクラブ
- NPO法人 nature works
- 人を自然に近づける川いい会
- 琵琶湖を戻す会
- 淀川管内河川レンジャー
- 淀川水系イタセンパラ研究会
- 淀川を守ろう会

企業

- (株)アクアエイメント
- (株)天辻鋼球製作
- (株)エコトラック
- 大阪トヨタ自動車(株) CSRお客様関連部
- 大阪トヨタ豊友会地域貢献クラブ
- 沢井製薬(株)CSR地球環境チーム
- パシフィックコンサルタンツ(株)
- パナソニック エコリレー ジャパン
- パナソニック松愛会大阪市内支部

大学・高校

- 大阪工業大学 城北水辺クラブ
- 大坂国際大学・短期大学部地域協働センター
- 大阪国際大学・短期大学部プレッパーズ部
- 大阪産業大エコ推進プロジェクト
- 大阪産業大学 水生生物研究室
- 大阪商業大学 経済学部 原田ゼミナール
- 大阪府立大学 キャンパスビオトップ研究会
- 大阪府立大学 里環境の会OPU
- 摂南大学 エコシビル部
- ルネッサンス大阪高校環境保全クラブ

行政

- 環境省 近畿地方環境事務所
- 国交省 近畿地方整備局淀川河川事務所
- 大阪府環境農林水産部 みどり推進課
- 大阪市旭区役所市民協働課(まち魅力)
- 大阪市立自然史博物館
- 大阪府立環境農林水産総合研究所

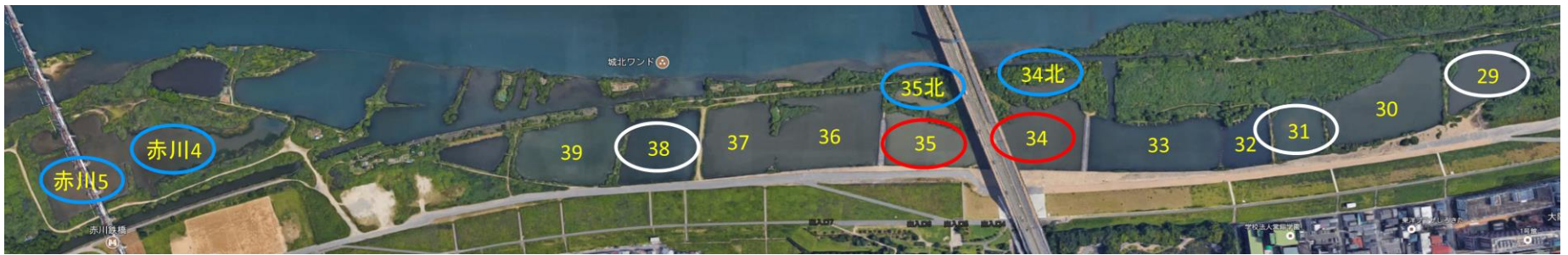
活動内容

- 1.生態系保全再生活動
 - ・ 外来種駆除活動
 - ・ 外来魚駆除釣り大会
 - ・ ワンド環境保全活動
 - ・ クリン活動
- 2.情報の共有と発信
 - ・ 勉強会
 - ・ 活動成果発表 (研究会/シンポジウム/地域イベント/情報交換会等)
 - ・ シンポジウムの主催・協力
- 3.水辺リーダーの育成
- 4.継続の仕組みづくり
 - ・ 講演会、観察会の主催
大学・高校・中学・小学生
企業、地域団体

2011年8月発足 17連携団体

2022年10月現在 42連携団体

城北・赤川ワンド群(上)と外来魚駆除ワンド (上)



外来魚駆除ワンド



新設の浅型ワンド



比較対照ワンド



地引網駆除域



ヒシと伐木4年後の樹林化(34北ワンド2017年7月)



伐木と底質ゴミ除去(34北ワンド2022年2月)



ナガエツルノゲイトウ除去(29ワンド2017年10月)

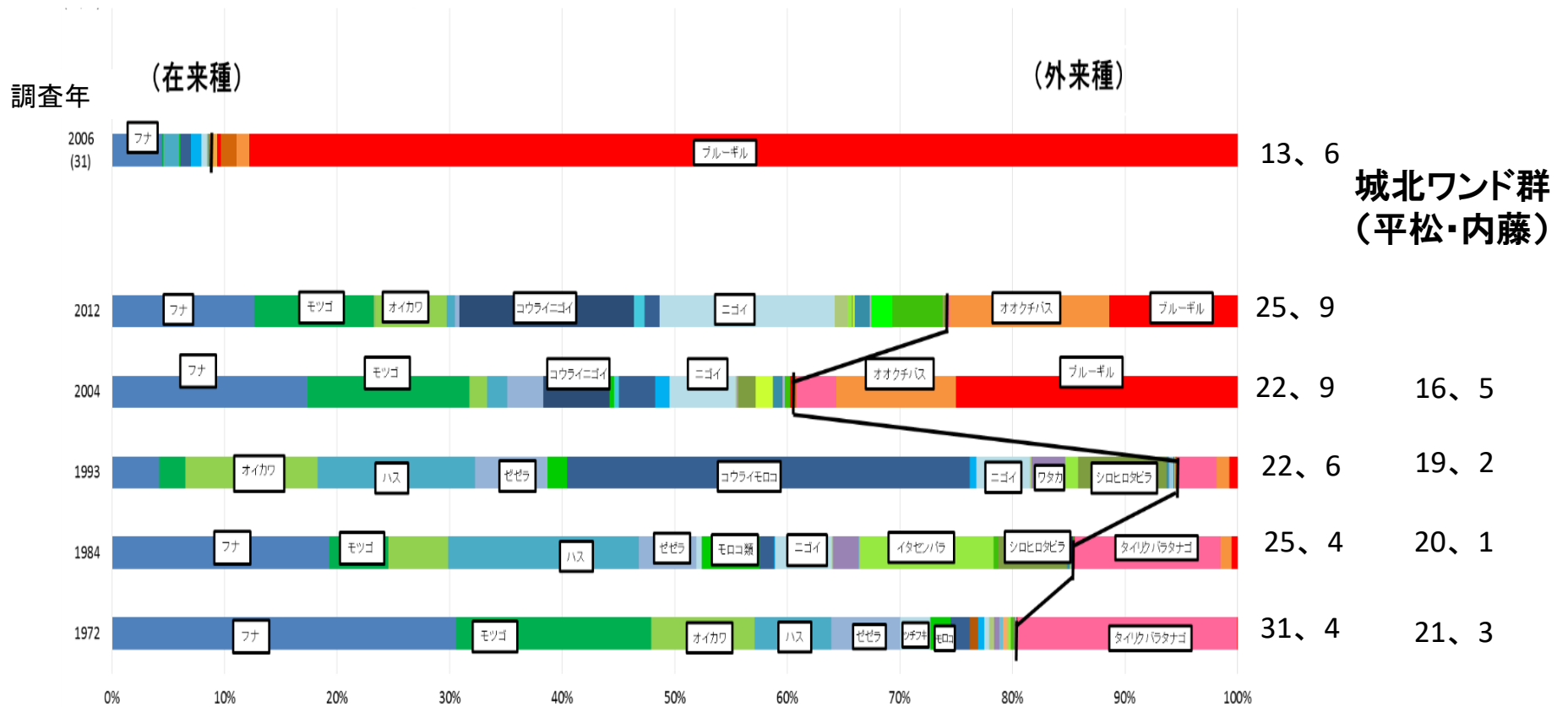


ヒシの除去(36ワンド2017年8月)



オオバナミズキンバイの除去(庭窪ワンド2020年9月) 7

ワンドの魚類相の変遷 (1974 - 2012)

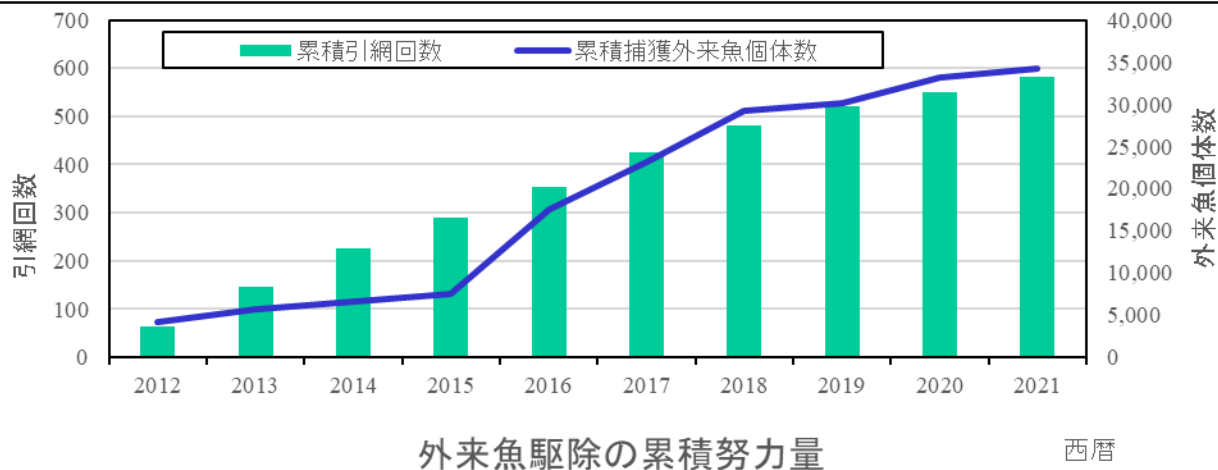


上段: 2006、淀川河川事務所による干し上げ調査結果(31ワンド、ポンプ排水)

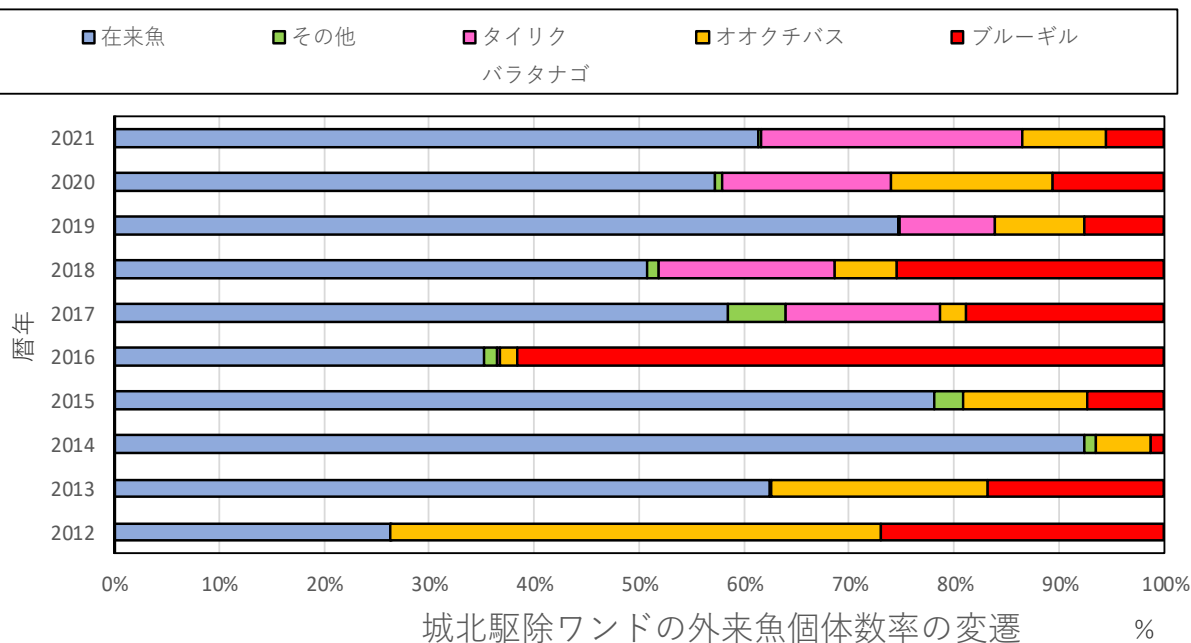
下段: 1972/73-2012、水生生物センターによる調査結果(本川全ワンド、地曳網)

暫定資料ですので、資料の複写、転載、公開、配布はお断りします。

外来魚駆除の努力量と効果；城北(2012-2021)



外来魚の駆除はイタセンネット、淀川河川事務所、生物多様性センターによって行われているが、左図はイタセンネットによるもののみを示した。延べ人数4702人により、582回引き網を行い、34,172尾の外来魚を駆除した。



努力量		捕獲魚	種数	
日数	回数	個体数	在来	外来
6	33	2,721	13	6
9	45	7,060	18	6
15	76	3,199	19	7
14	57	12,511	18	5
13	71	13,483	24	6
14	63	15,434	21	6
13	65	4,075	19	5
13	79	11,593	20	4
14	82	4,217	17	4
12	64	5,670	18	4

駆除開始後には、65%、38%の外来種率であったが、ブルーギル当歳魚が異常に多かった2016年を除き、肉食性外来種は30%程度以下である。在来魚種数は2017年24種が最多である。

暫定資料ですので、資料の複写、転載、公開、配布はお断りします。

放流後のイタセンパラの確認状況(回数)

西暦年	推定 稚魚数	6月		7月		8月		9月		10月		11月		確認回数 確認/全回
		1回	2回	1回	2回	1回	2回	1回	2回	1回	2回	1回	2回	
2022	80													8/12
2021	352													1/6
2020	889													7/9
2019	11677													11/12
2018	20767													9/11
2017	8888													10/10
2016	577													8/11
2015	502													7/10
2014	750													3/9
2013	0									放流				1/11

□ : 調査日 □ : イタセンパラ確認日 □ : 調査中止日

Step	目 標	指 標	達成度
1-a	再導入した成魚が野生で繁殖すること	再導入した成魚が野生で繁殖した結果、翌春（貝から泳出した）稚魚が出現すること	
1-b	稚魚が成魚まで成長し、生活史を全うすること	第二世代の成魚が確認されること	H26 達成
2	第二世代以降の成魚が毎年繁殖すること	毎年稚魚が出現すること	H27 H28
3	野生の個体群が大きくなること	稚魚の生息数が増加すること	H29 H30
4	淀川の広い範囲にわたって生息水域が再生されること	淀川の広い範囲において十分な数の生息水域が確認されること	

・稚魚・成魚の確認は2019年まで十分多かったが、近年減少傾向である。



繁殖継続に懸念

生物多様性とイタセンパラのまとめ

1. 定期的な外来種駆除による低密度管理により、イタセンパラをはじめとするより多様な在来魚の生息場が回復する。
2. 再導入イタセンパラは自然繁殖を繰り返しているが、その生息水域は導入ワンド周辺に止まり、顕著な生息域の拡大は見られない。
3. 淀川の生物多様性は、強力な外来種駆除が行われているごく狭い僅かな水域でのみ回復している。
4. 外来種(魚類、植生)対策、物理環境(流れ、水位、底質等)の管理の継続が欠かせない。

自然豊かな淀川を次世代につなごう

ご清聴ありがとうございました

4. 継続の仕組みづくり(観察会)の実施
2020.10.3 水辺キャラバンワンド観察会